

科目名	成人看護学特論Ⅱ		分野・必選別・ 単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子 教授 林さとみ 准教授 古屋洋子					
課程	博士後期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法 講義
授業の概要	成人各期にある様々な健康レベルの人々の療養上の課題 に対応している国内外の研究論文を諸側面から捉え、看護ケアの発展性、可能性について検討し、研究的知見を深める。 療養上必要な専門知識と看護技法を看護学として体系化し、健康上の課題の解決とケアの展開能力を発展させることを目的とする。					
授業の到達目標	成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討できる。					
授業計画	回数	担当者		行動目標		
	1	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	科目概説 本科目の概要を説明できる。		
	2	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	3	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	4	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	5	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	6	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	7	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	8	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	9	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	10	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	11	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	12	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	13	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	14	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
	15	南川 雅子 林 さとみ	教授 教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。		
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。				
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。				
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。				
教科書	必要に応じて適宜提示する。					
参考書	必要に応じて適宜提示する。					
評価方法	演習に必要な資料の作成30%、課題レポート70%の達成度により評価する。					
その他履修上の注意事項	演習日程は、話し合いの上で決定する。 試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。					